

肥前国宇野沙厨



三十一

御厨牛

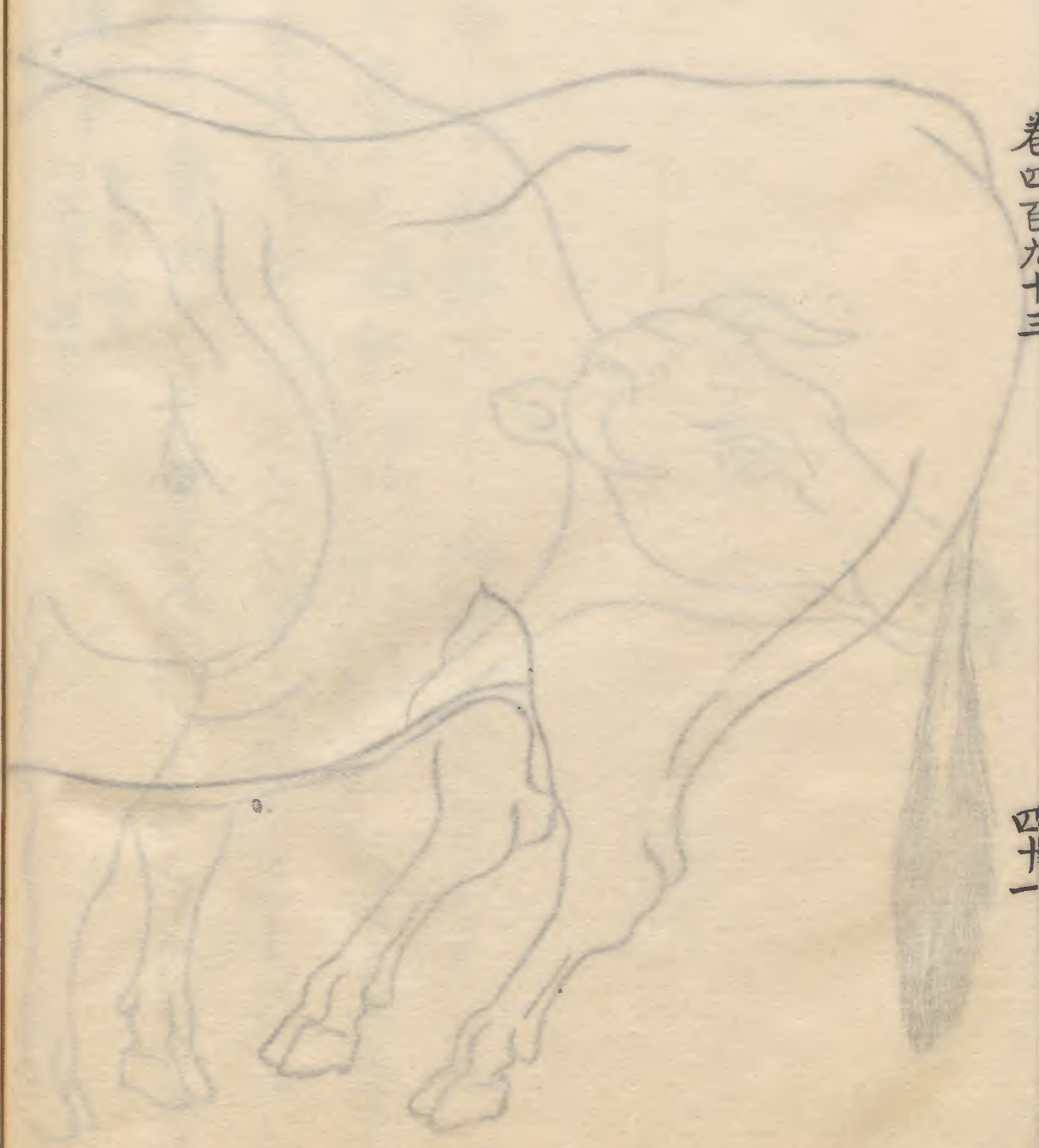
以肥前国宇野沙厨
貢牛稱之

角おく骨ゆとく皮完あつてえとくつとく
か牛大さありと申古の名牛物同く
大文字小鞆繪自故今出川入道太政大臣
家被下世承之式云大文字に
とありす散毬打り鞆繪といふと云



御厨牛

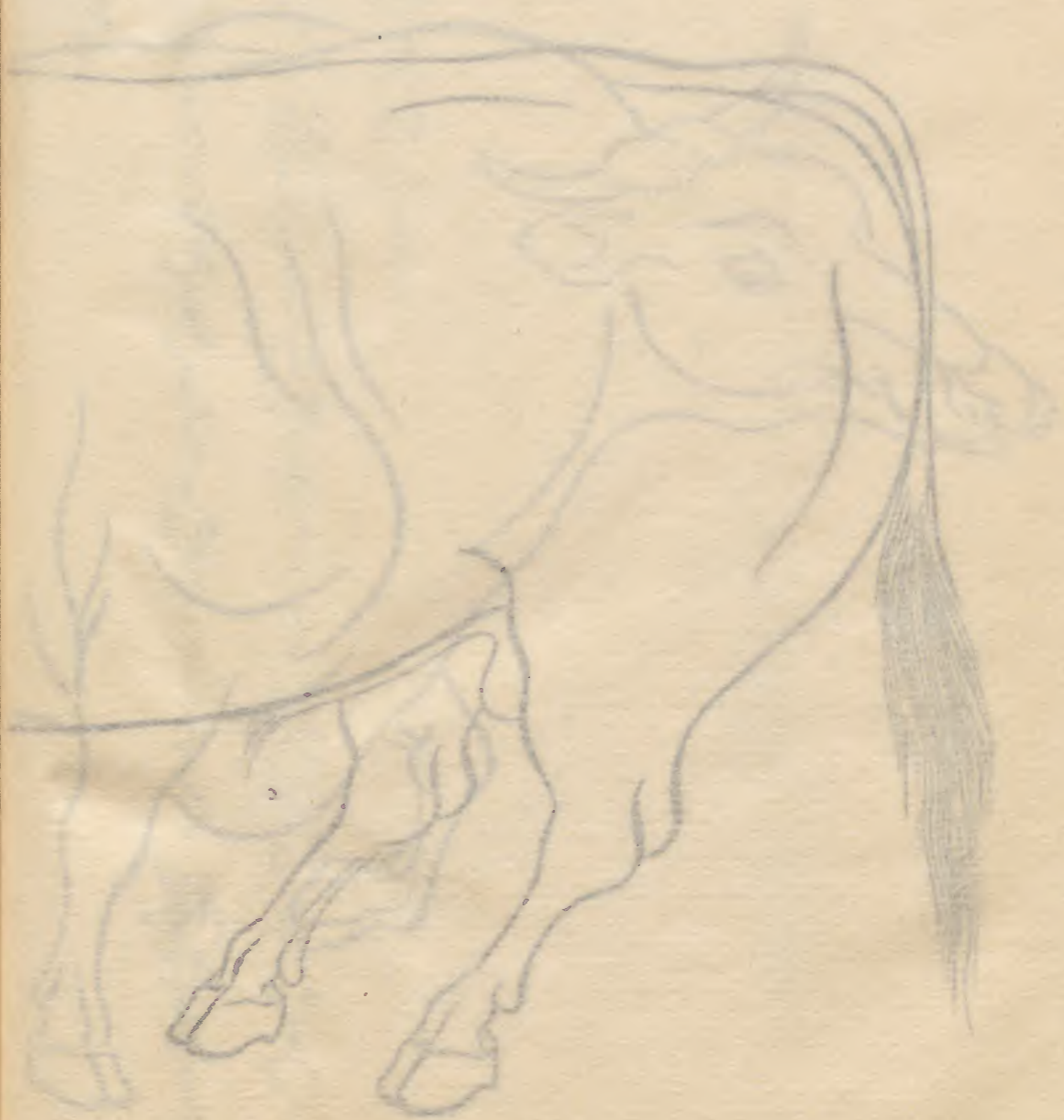
三十一



淡路牛

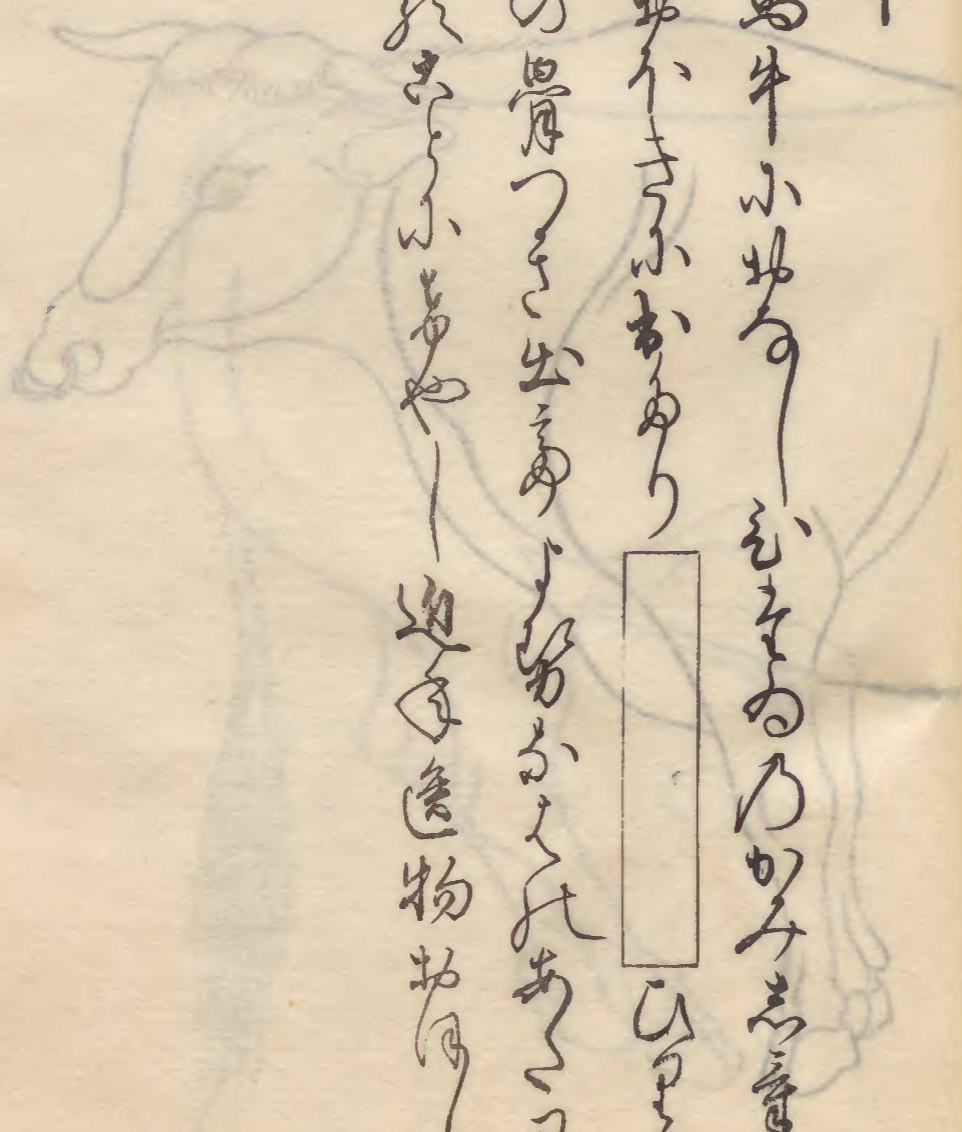
あゝほせくく角を記えよ孫て完びくくあう
骨とくふ午一の姉となるも凡そいぢらひさうりて
坊ううまうーとく積あれた遠物すくあまの
あ

近年西園寺より湯厨乃字をさせらまじ又
大きふれまも出来た



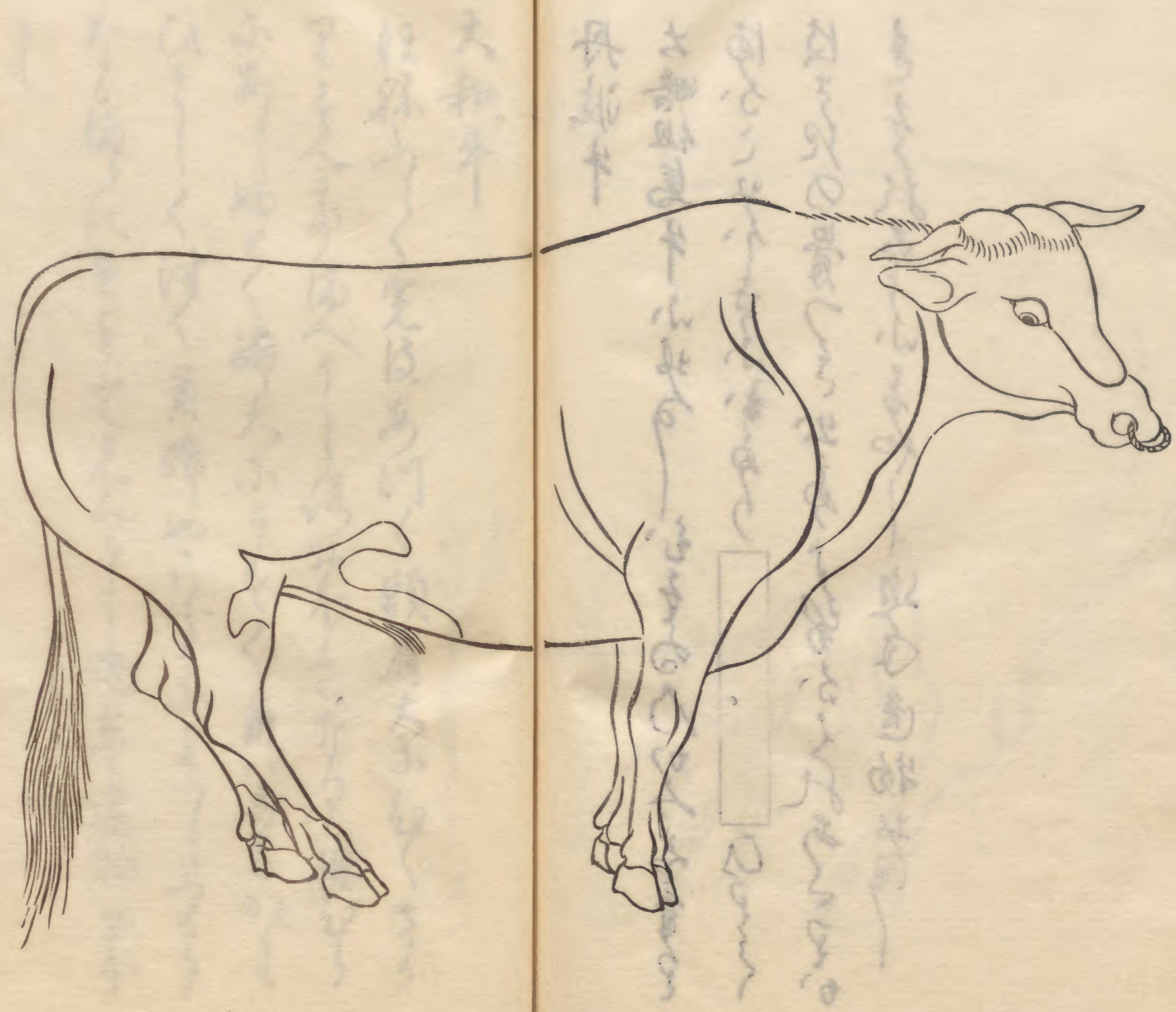
丹波牛

大略但馬牛小馬の毛をわりのりかき
 膚かこぬがきふかあり ひろく
 皮さ兒の骨つぎ出まふ馬かたれあひり
 道をたぬふまやー 追尋造物也ー



卷之九

四十六



大和牛
 其形如牛
 其色如白
 其尾如尾
 其鬃如鬃
 其蹄如蹄
 其角如角
 其耳如耳
 其眼如眼
 其鼻如鼻
 其口如口
 其舌如舌
 其喉如喉
 其胃如胃
 其肠如肠
 其胆如胆
 其脾如脾
 其肺如肺
 其心如心
 其肾如肾
 其肝如肝
 其胆如胆
 其脾如脾
 其肺如肺
 其心如心
 其肾如肾
 其肝如肝

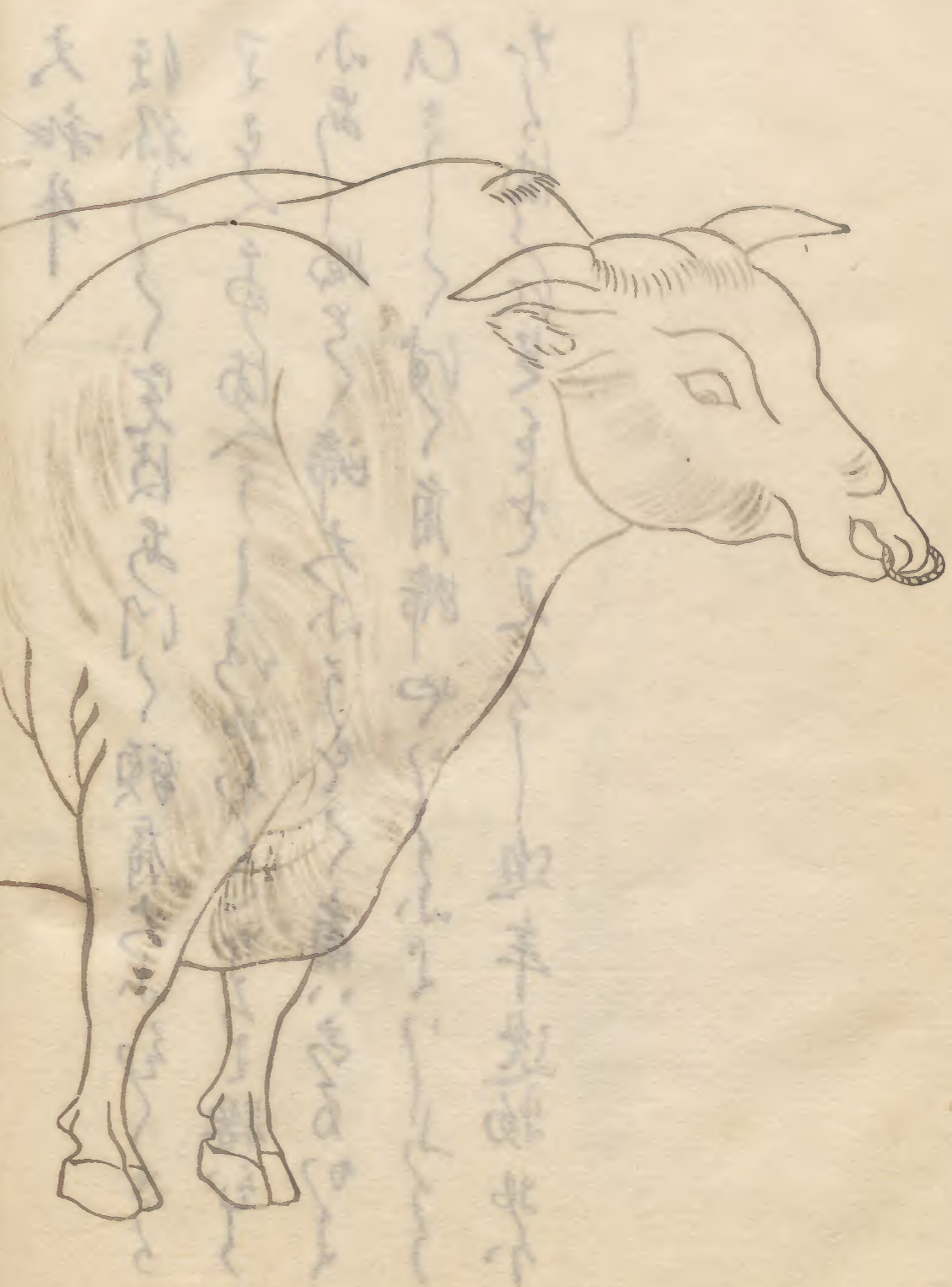
卷之九

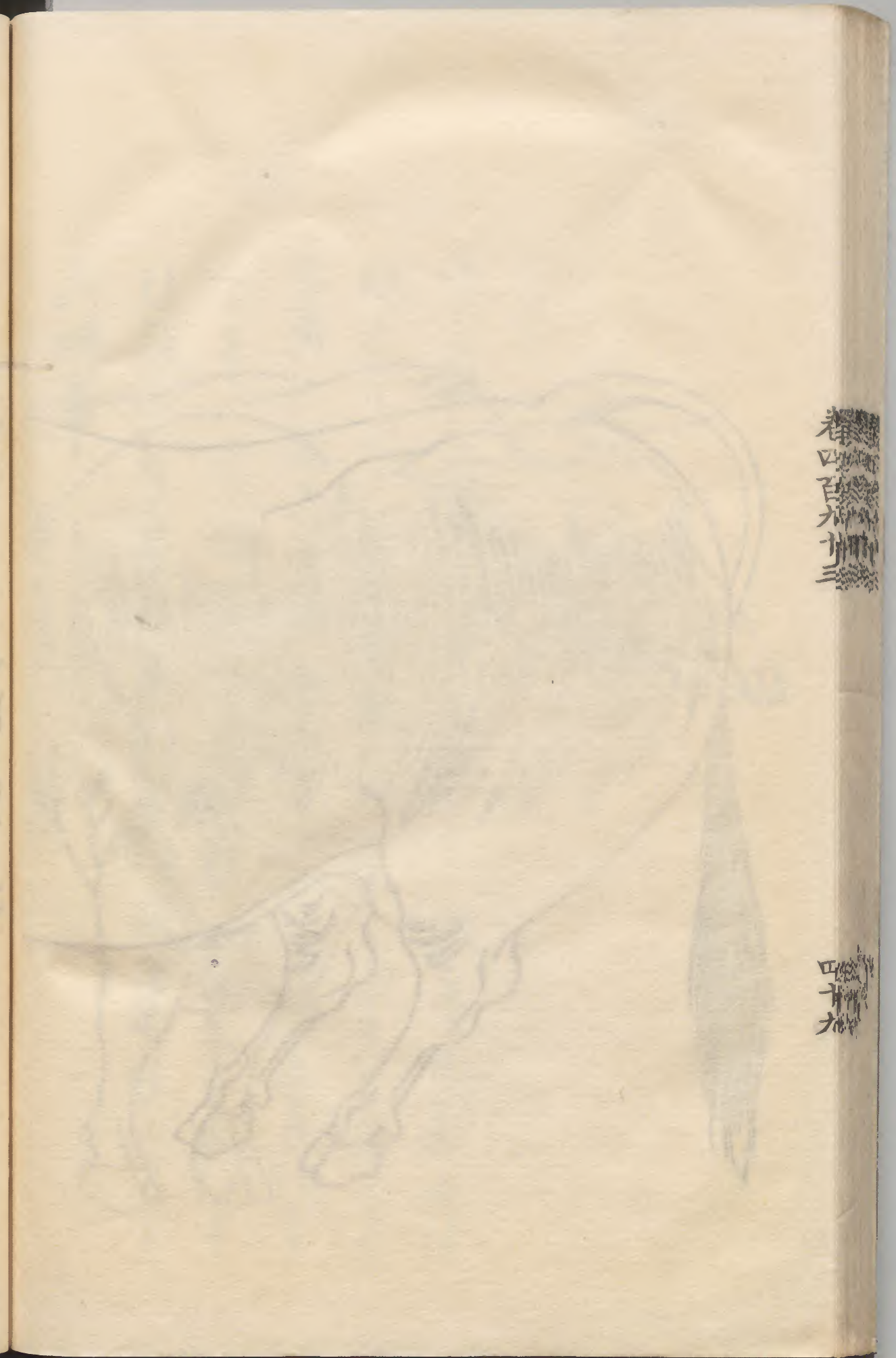
四十六



大和牛

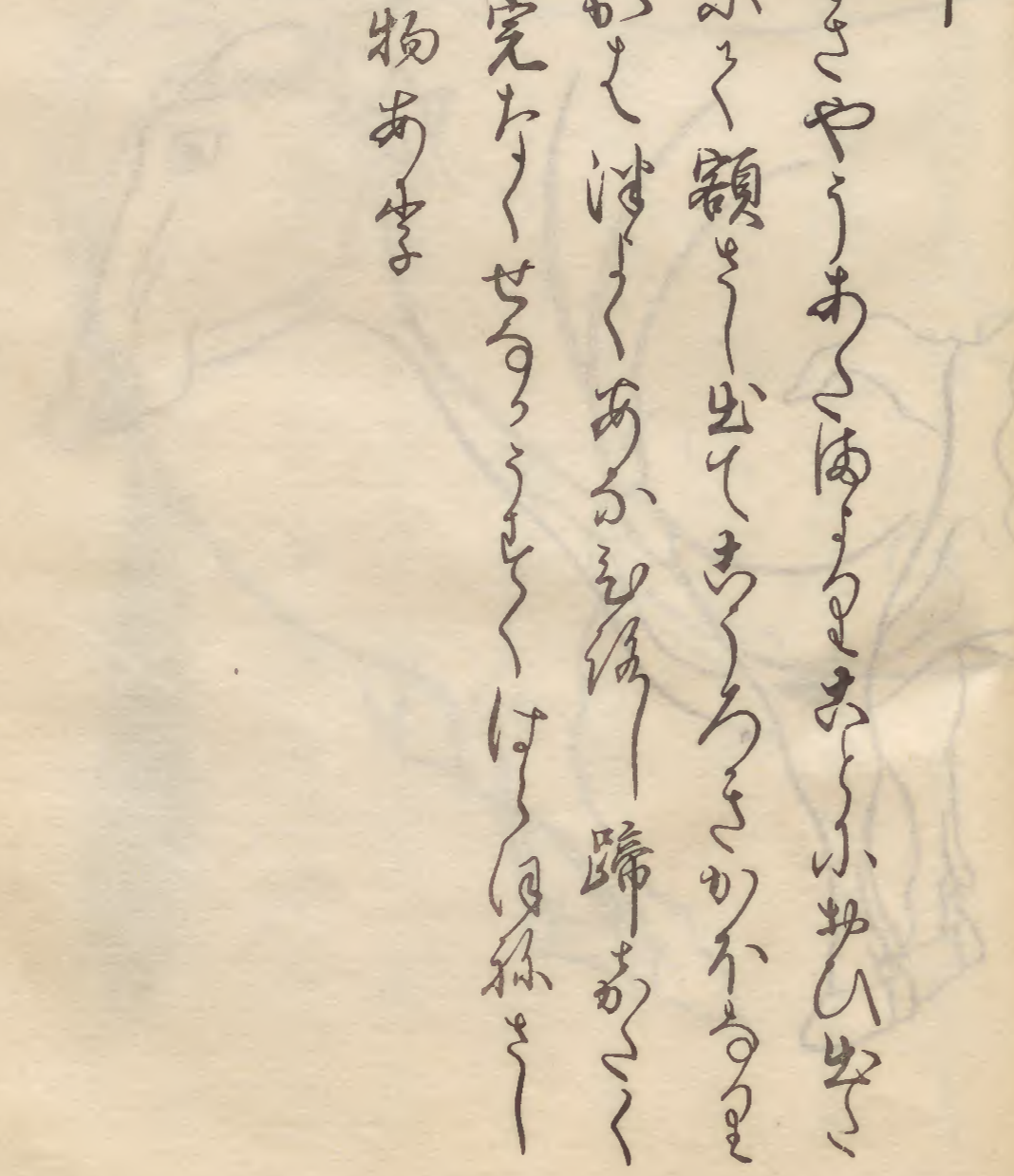
ほれ少く完皮ありて頸肩大ふくま
りまゝの事ゆへに後ゆゑさたると腰ひ
小あしゆとて端大ふくまと角はあつた
ひきくはく角蹄やうふより少く
なるゆゑは是もさへくは一年逸物ゆへ

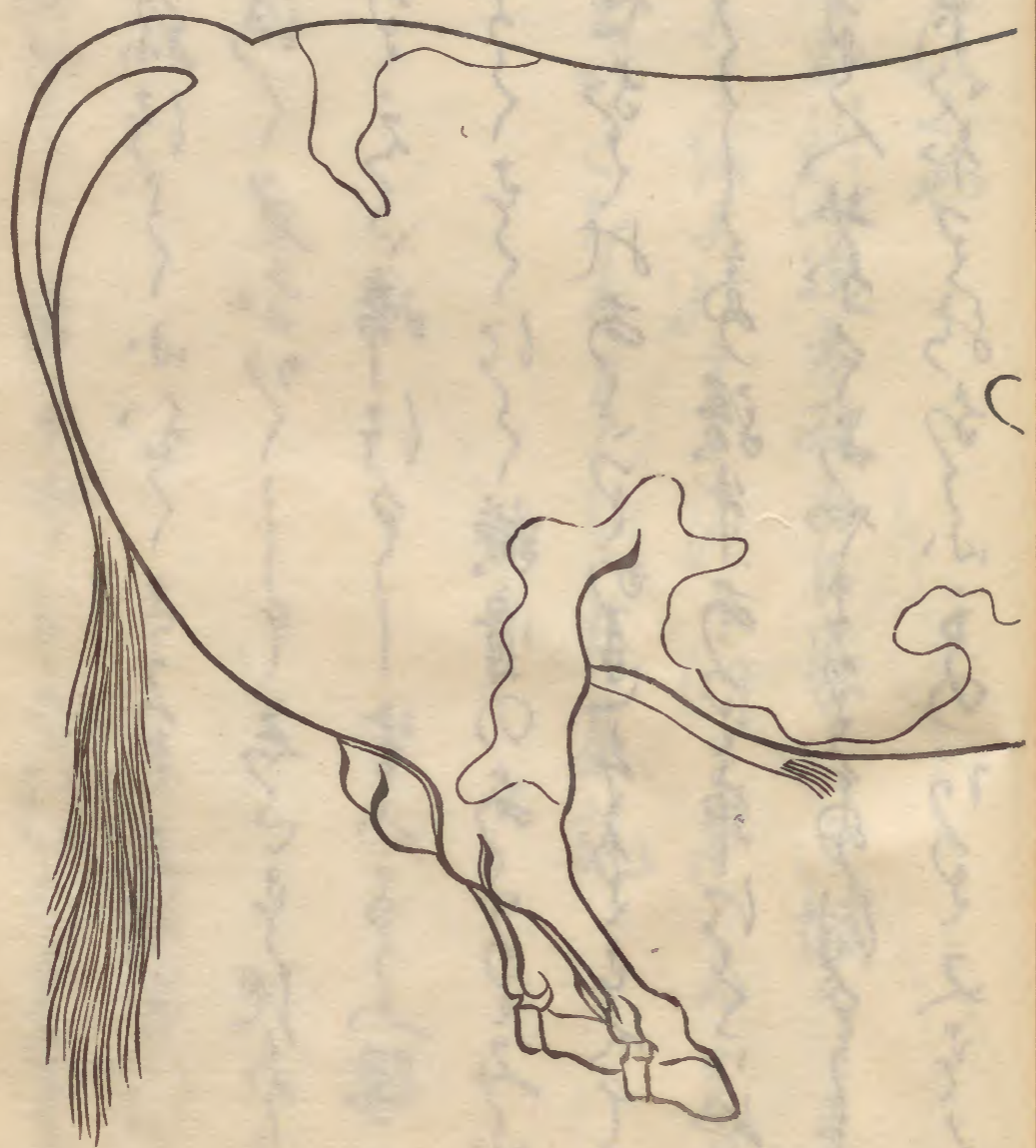


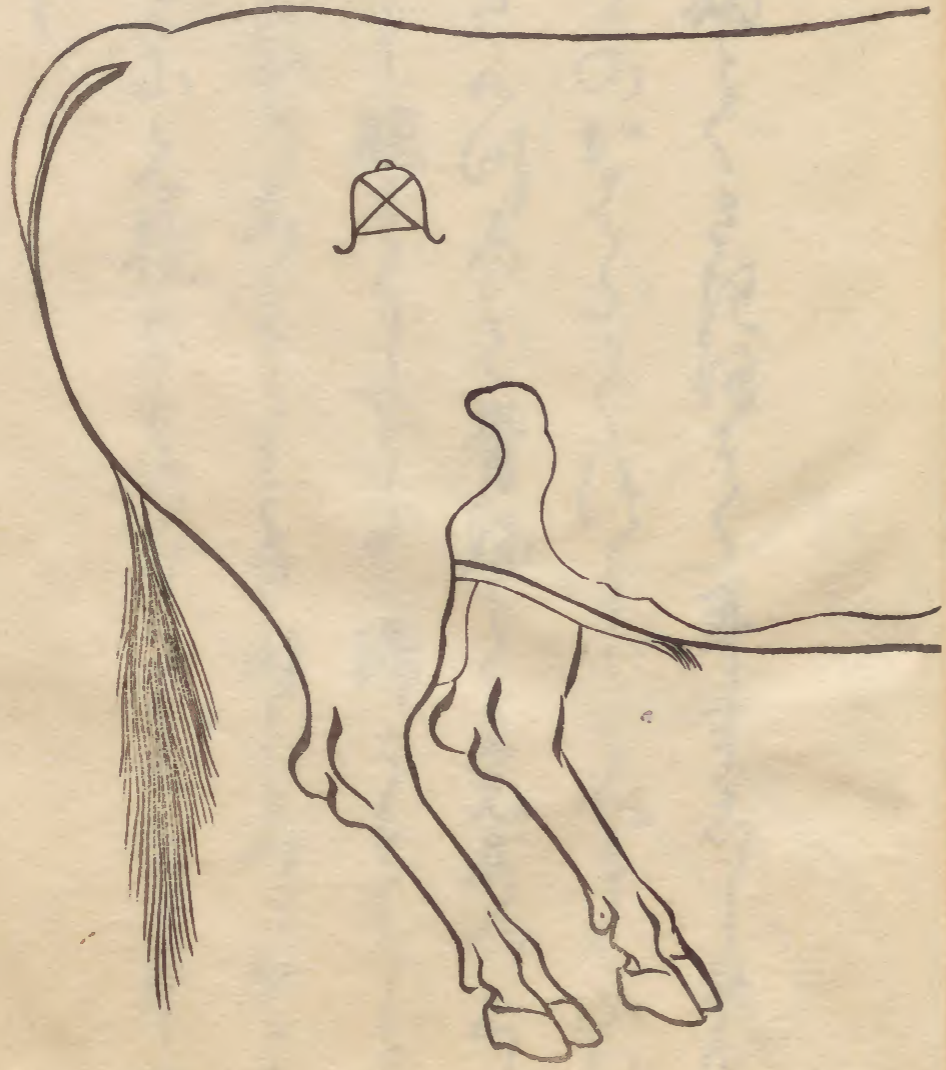


河内牛

角乃ほさやうあはゆらまふふかひ出さ
ふさふさく額より出てまうらさか不きり
とれのかしほくあふまほ一蹄あてく
えくに完たてせらうらまてくけしほ録
とた逸物あ字









越前牛

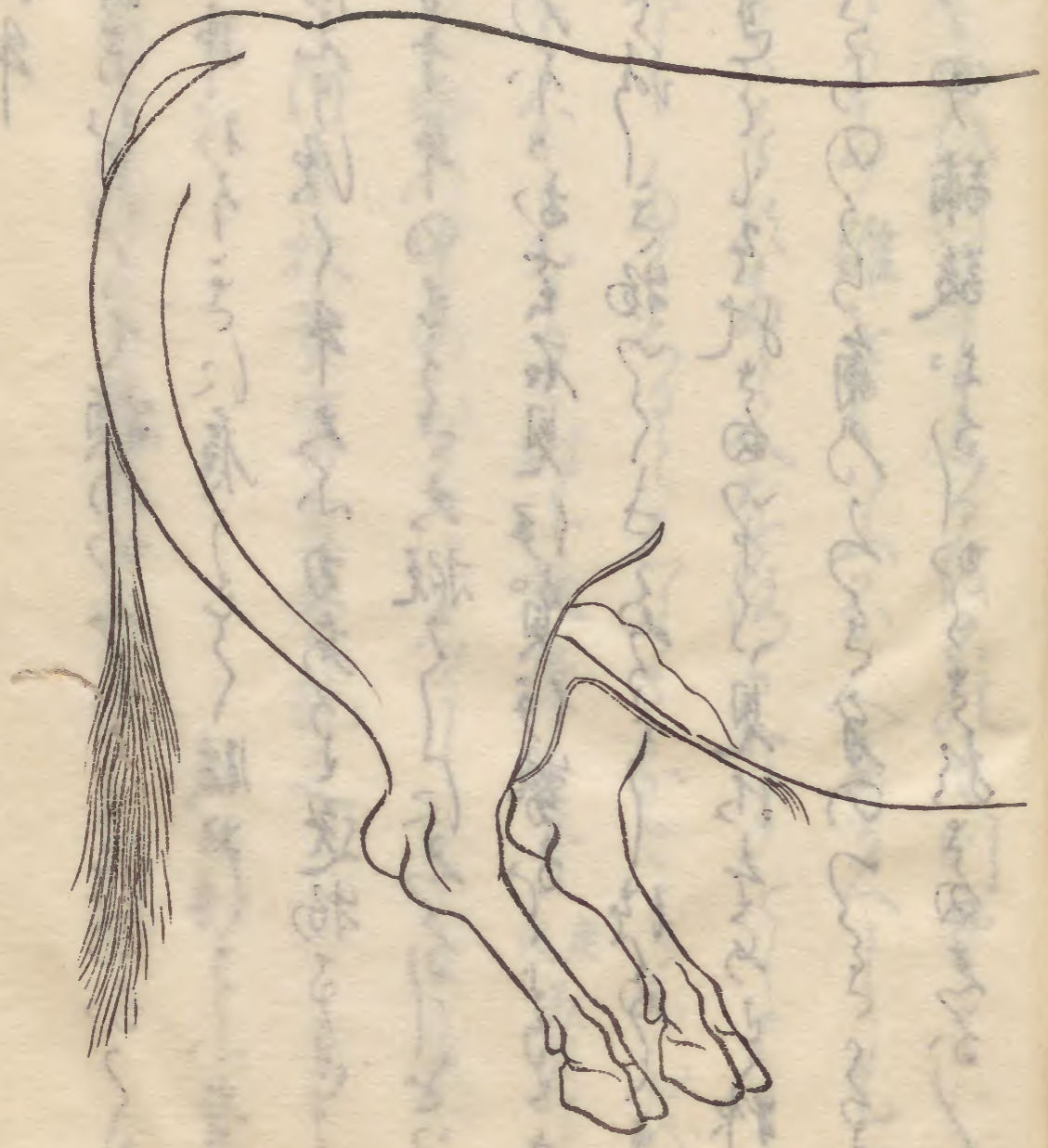
角もや短くも尻尾も耳すまへも
 形もまたよのこもかへはくも
 里もあつてくも骨も短く完あつて
 かもあつて腕も短くも蹄も短くも
 肉も厚くもあつても時分も
 てうへらふえ振ふものなるも大なる牛送
 物も

牛の頭

牛の頭



鐵頭下



馬頭上

馬尾上

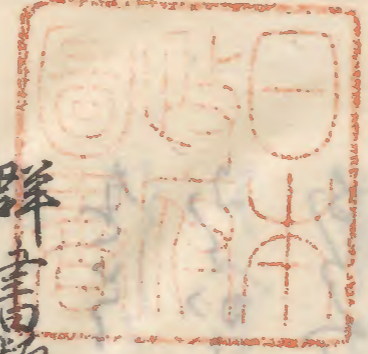
誠後牛

何れも劣りて額のかみおしはのかく兼
 きふ耳がふきに有うとく腹おほふ骨ふ
 とく完うはく牛ふ力あると送物を造り
 あま十年のさうと大概くはたしをり
 ぬふり不のおま石見伊賀伊勢おとふとさ
 事と海一三物つくさぬとくはぬとく
 ぐん事ともそれぬとく見はとあはれお
 形一らのうら角乃うらさ方のつとくさ
 志ふと事補駿おしおとくぬとくぬとく

何していひはくしとる成未れをいおそに自
 をとつめぬ難とくりふふくあるく一是相
 ぬかひとさぬぬ人を海つたつとくさ
 ありく一ぬとくしとくさかこにさらむはも
 ちひさふかとなると時ふ延慶三年 庚戌五月十日
 あまりと雨乃中のむるにさくしをさうとぬ

河東牧童竄直磨記之

右國牛十圖以左京藤貞幹本書寫



群書類從卷第四百九十三

Faint handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

拾九日
内閣文庫

